



描く

で

中

流れの



みずのきアーカイブのための展覧会 2017

中川直昭・牧野恵子

Naoaki Nakagawa

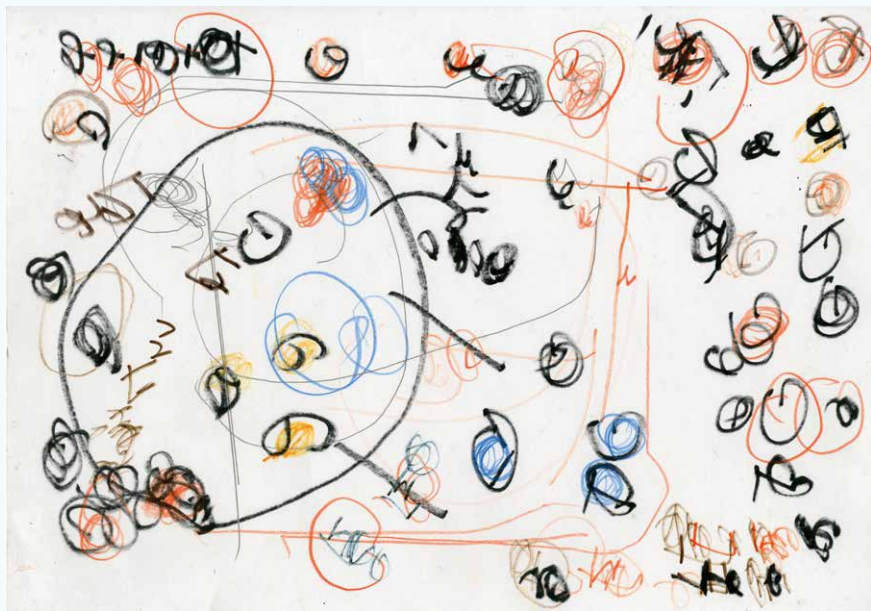
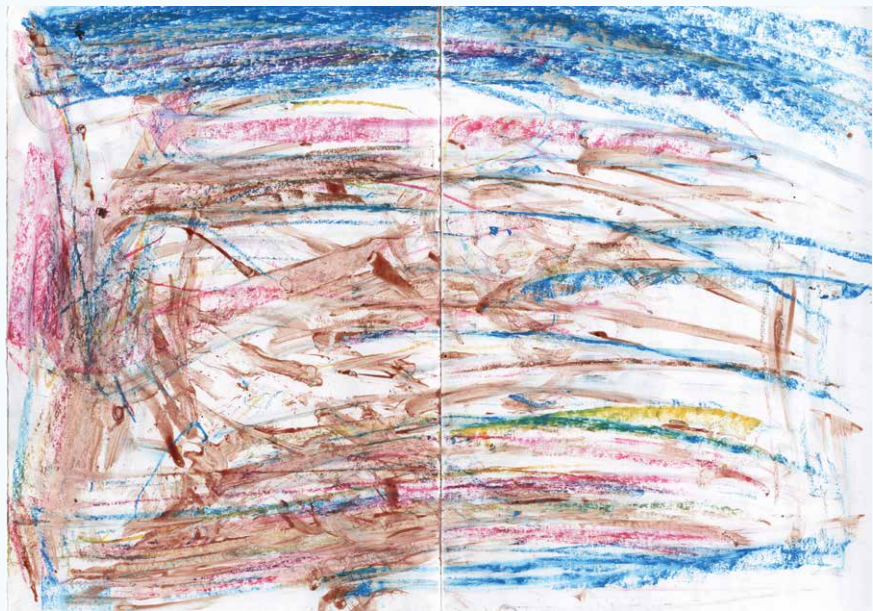
2017年8月5日(土) - 10月22日(日)

Keiko Makino

みずのき美術館

入館料：一般400円／高大生200円／中学生以下無料

助成：日本財団



中川直昭 Naoaki Nakagawa

1976年生まれ。みずのきで暮らす。アトリエの向かい、自室のあるユニットからアトリエが開いているのが分かったと、さっさとやってきて椅子に座り、一時の間もなく画材が入った箱からクレヨンを持ち、一気に30分ほどで30枚以上も描く。そのスピード感には何のためらいも感じられず、描くことが日常の所作の流れの一部であるかのよう。しかし、適当に描いているように見えて、1枚の絵の中に二色の異なる線が効果的に入っていたり、程よい塗り重ねや描き残しがなされ、毎回の制作の中で直感的に、1枚の絵を仕上げるということがなされているように感じられる。伸びやかなストロークで構成された画面は、誰でも描けそうで、誰にも描けない中川独自の表現である。2014年、花岡伸宏との2人展「disappear -みえなくなる-」ギャラリーあしやシューレ 2016年、「みんなのアート～それぞれのらしさ～2016」みんなの森 ギャラリーあしやシューレに出品。



表面・裏面：
中川直昭
制作年：2017
素材：クレヨン、紙

牧野恵子 Keiko Makino

1951年生まれ。グループホームで暮らしながら、平日の日中のみずのきで過ごす。3年前に初めてアトリエに参加したとき、「ええんか?」と言いつつも力強いタッチで一気に描ききったことをきっかけに、現在は隔週のアトリエの時間をとても楽しみにしている。カレンダーや画集を見ながら描いているが、画面には不思議な記号のようなものが並ぶ。本人にとって描くことは、人に何かを伝えるための大切なコミュニケーションツールなのだろう。2014年、ALLNIGHT HAPS「暗闇から真昼を覗き見る」展にて、演出家の村川拓也による選出で出品。



表面・裏面：
牧野恵子
制作年：2017
素材：クレヨン、ペン、鉛筆、アクリル絵具、画用紙

みずのきアーカイブ
のための展覧会
中川直昭・牧野恵子
2017
流れの中で描く

ワークショップとトークイベント

2017年8月27日(日)

13:00-14:30

ワークショップ

「描いてないと思っていたら、絵ができていた」

偶然の中から描くことを体験します。描いた絵の中から1枚を選んで額装を行い、持ち帰ることができます。

講師 花岡伸宏(彫刻家)

森太三(美術家・みずのきアトリエ講師)

参加料 500円(額込込、入館料別途)

定員 15名(要申込)

申込方法 イベント名、お名前、ふりがな、TEL、メールアドレス、人数、また同伴者の有無、をご記載のうえ、[info@mizunoki-museum.org]までメールをお送りください。当館の受付受理の返信をもって、受付完了とさせていただきます。

15:30-17:00

トークイベント

「流れの中でつくる」

出演 村川拓也(演出家)・花岡伸宏

聞き手 奥山理子(みずのき美術館キュレーター)・森太三

参加料 無料(入館料別途、申込不要)

障害のある人たちが暮らす「みずのき」の中にあるアトリエ。本展では、みずのきアトリエに通う中川直昭、牧野恵子の作品をご紹介します。

日々の生活の中で、「描く」ことがごく自然な行いであるかのように、紙の上で繰り返される動きの中で生まれてくる二人の絵。2017年1月から7月に描かれた最新作で構成した空間に包まれたとき、「描く」という行いが、人間にとって大切な活動であることに気づかされます。

みずのき美術館



開館時間：10:00-18:00(入館は開館の30分前まで)
休館：月曜日・火曜日(ただし、祝日の場合は開館)
〒621-0861 京都府亀岡市北町18
tel: 0771-20-1888
fax: 0771-20-1889
web: www.mizunoki-museum.org

JR山陰本線「亀岡」駅より徒歩8分

◎8月27日(日)12時~17時は美術館内でイベント開催のため、通常の鑑賞ができません。ご注意ください。

